

# 病理学 2

年次	学期	学則科目責任者
3年次	前学期	久山 佳代 (口腔病理学)

学修目標 (GIO)	<p>疾病は生体の機能や構造,あるいはその両者が正常範囲から逸脱した現象であり,その原因は「病因」,表出した状態が「病態」と現すことができる。病理学を学ぶ者は,種々の疾病を総合的に理解する必要があり,そのためには病因・病態,ならびにそれらを結び付けている過程・経過における変化や現象(病変)を考究しなければならず,この理解をなくしては医療・歯科医療が成立しない。さらに,疾病を理解する思考は基礎医歯学から臨床医歯学への橋渡しとなる。この科目では,疾病の本態を理解するために必要となる,その成り立ちや理論に関することを修得できる。</p>
担当教員	<p>久山 佳代、宇都宮 忠彦、齋藤 美雪、木場 秀夫、※高田 隆、※山本 浩嗣、※田中 秀邦、※ムニエ マリア、※阿部 洋太郎、※新崎 博文、※猪又 俊之、※大石 善也、※太田 泰人、※大村 光浩、※黒子 光雄、※小泉 歩、※小泉 康之、※齋藤 隆明、※坂田 一美、※紫垣 華子、※茂田 里恵、※白川 誠二、※神向寺 登美夫、※鈴木 彰、※鈴木 慶洋、※田中 強、※玉城 吉夫、※中澤 啓介、※中島 十四夫、※中村 文彦、※永井 隆雄、※西山 孝宏、※林 正人、※松村 由香、※三宅 正純、※村守 樹理</p>
教科書	<p>スタンダード病理学 学建書院 スタンダード口腔病態病理学 学建書院 病理・口腔病理組織学実習提要 日本大学松戸歯学部口腔病理学講座</p>
参考図書	<p>口腔病理アトラス 第2版 高木實 文光堂</p>
評価方法 (EV)	<p>1) 講義の評価は、平常試験1 (30%)、平常試験2 (30%)、まとめ試験(30%)および小テスト等 (10%)の割合を目安とし、総合評価をもって60点以上を合格点とする。 2) 実習の評価は、平常試験1 (20%)、平常試験2 (20%)、まとめ試験(30%)、実習帳 (20%) および小テスト等(10%)の割合を目安とし、総合評価をもって60点以上を合格点とする。また、受講態度についても評価の対象となりうる。 3) 病理学2は1)と2)をともに満たしたものを合格とする。 4) 1)または2)のいずれか、もしくはともに不合格だったものには再試験を実施することがある。ただし、欠席数(政党な理由のない)が全体の1/5以上のものはこれによらない。 5) 不合格者の評価は0-59点とする。</p>
学生へのメッセージ オフィスアワー	<p>病理学は基礎歯科医学から臨床歯科医学への橋掛りとなる学問です。病理学で培う知識は、病態理解から確定診断、そして治療方法の選択および予後の評価へと多くの科目を結びます。病理学2では、口腔病理学の理解が深まるよう新たなプログラムを展開します。3年生の前期で習得した口腔病理学の知識は、歯科医師国家試験突破までの大切な武器となります。病理学1の復習とともに予習を必ず行ってください。</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/04/06 (水) 2時限 10:40~12:10	(病理学2 ガイダンス) 口腔顎顔面領域の 発育異常	<p>【授業の一般目標】 疾病は生体の機能や構造,あるいはその両者が正常範囲から逸脱した現象であり,その原因を「病因」,表出した状態を「病態」とする。種々の疾病を総合的に理解するために病因・病態,ならびにそれらを結び付けている過程・経過における変化や現象(病変)を考究しなければならず,この理解をなくしては医療・歯科医療が成立しない。さらに,疾病を理解する思考は基礎医歯学から臨床医歯学への橋渡しとなる。したがって,本講義の一般目標は疾病の本態を理解するために,その成り立ちや理論を習得し,ひいては問題発見及び問題解決能力を身につける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 口腔と顔面の裂奇形について説明できる。 2. 口腔・舌の発育異常について解説できる。</p> <p>【準備学修項目】 ・口腔顎顔面の発生について解説できる。 ・奇形の分類について述べる事ができる。</p> <p>【学修場所・媒体等】 301 講堂, マルチメディアの併用, 第2実習室</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301 教室, 第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 b 先天異常、発育異常</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 1 病因論 ア 染色体・遺伝子・発生の異常 必修の基本的事項 7 人体の発生・成長・発達・加齢 イ 歯・口腔・顎・顔面の発生・成長発育 a 歯・歯列の成長発育 (歯の発生、発育時期、萌出時期・順序、歯の脱落・交換時期、歯齢)</p>	久山 佳代

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/04/06 (水) 2時限 10:40~12:10	(病理学2ガイド ランス) 口腔顎顔面領域の 発育異常	<p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生を概説できる。 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-2) 個体発生、器官発生 *①個体発生と器官発生を概説できる。</p>	久山 佳代
2016/04/06 (水) 3時限 13:00~14:30	顎口腔領域に発生 する嚢胞	<p>【授業の一般目標】 嚢胞の成り立ちと生物学的意義について学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 嚢胞の分類について説明できる。 2. 顎骨に発生する嚢胞の種類、成り立ち及び病理組織学的特徴について説明できる。 3. 軟組織に発生する嚢胞の種類、成り立ち及び病理組織学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 嚢胞の定義について述べるができる。</p> <p>【学修場所・媒体等】 301 講堂, マルチメディアの併用, 第2実習室</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301 教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 カ 嚢胞</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞、腫瘍および類似疾患 *①顎骨に発生する歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 *②顎骨に発生する非歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 *③軟組織に発生する嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 *④口唇・口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の一般的な症状、診断法および治療法を説明できる。</p>	久山 佳代 山本 浩嗣
2016/04/06 (水) 4時限 14:40~16:10	口腔顎顔面領域の 発育異常・嚢胞 (実習)	<p>【授業の一般目標】 口腔顎顔面領域の嚢胞性疾患と発育異常について学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 嚢胞の分類について説明できる。 2. 顎骨に発生する嚢胞の種類、成り立ち及び病理組織学的特徴について説明できる。 3. 軟組織に発生する嚢胞の種類、成り立ち及び病理組織学的特徴について説明できる。 4. 顎顔面領域の奇形的疾患について説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 嚢胞の定義について述べるができる。 口腔顎顔面領域の発生について解説できる。 奇形の分類について述べるができる。</p> <p>【学修場所・媒体等】 第2実習室, マルチメディアの併用, 301 講堂</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301 教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 カ 嚢胞</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 b 先天異常、発育異常</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞、腫瘍および類似疾患 *①顎骨に発生する歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 *②顎骨に発生する非歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。</p>	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 木場 秀夫 田中 秀邦 ルニョイ マリア 山本 浩嗣 齋藤 隆明 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 坂田 一美 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 阿部 洋太郎 神向寺 登美夫 永井 隆雄

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/04/06 (水) 4時限 14:40~16:10	口腔顎顔面領域の 発育異常・嚢胞 (実習)	*③軟組織に発生する嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 *④口唇・口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の一般的な症状、診断法および治療法を説明できる。	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 木場 秀夫 田中 秀邦 丸ノイ マリア 山本 浩嗣 齋藤 隆明 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善之 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 坂田 一美 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 阿部 洋太郎 神向寺 登美夫 永井 隆雄
2016/04/13 (水) 2時限 10:40~12:10	齶蝕・象牙質・セ メント質の病変	【授業の一般目標】 齶蝕・象牙質・セメント質の病変について理解し説明できる。  【行動目標 (SBOs)】 1. 齶蝕の発生機序について解説できる。 2. 第二象牙質と修復象牙質(第三象牙質)について説明できる。 3. 象牙粒とセメント粒について解説できる。  【準備学修項目】 ・齶蝕の疫学的事項について説明できる。 ・齶蝕原性細菌や歯垢形成について説明できる。 ・歯の正常組織構造について解説できる。  【学修場所・媒体等】 301 講堂, マルチメディアの併用, 第2実習室  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 301 教室, 第2実習室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 a 歯の硬組織疾患  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 *①歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明できる。	木場 秀夫
2016/04/13 (水) 3時限 13:00~14:30	齶蝕・象牙質・セ メント質の病変に ついて学習する。	【授業の一般目標】 ・セメント質増殖症について説明できる。 ・歯の吸収について述べることができる。  【行動目標 (SBOs)】 1. セメント質増殖症について説明できる。 2. 歯の吸収について述べることができる。  【準備学修項目】 ・齶蝕の疫学的事項について説明できる。 ・齶蝕原性細菌や歯垢形成について説明できる。 ・歯の正常組織構造について解説できる。  【学修場所・媒体等】 301 講堂, マルチメディアの併用, 第2実習室  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 301 教室, 第2実習室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 a 歯の硬組織疾患	木場 秀夫

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/04/13 (水) 3時限 13:00～14:30	齶蝕・象牙質・セメント質の病変について学習する。	<p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 *①歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明できる。</p>	木場 秀夫
2016/04/13 (水) 4時限 14:40～16:10	歯の硬組織の病変 (実習)	<p>【授業の一般目標】 齶蝕・象牙質・セメント質に関連した疾患を説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 齶蝕の病理学的特徴について解説できる。 2. 第二象牙質と修復象牙質 (第三象牙質) について説明できる。 3. 象牙粒とセメント粒について解説できる。 4. セメント質増殖症について説明できる。 5. 歯の吸収について述べることができる。</p> <p>【準備学修項目】 ・齶蝕の疫学的事項について説明できる。 ・齶蝕原性細菌や歯垢形成について説明できる。 ・歯の正常組織構造について解説できる。</p> <p>【学修場所・媒体等】 301 講堂, マルチメディアの併用, 第2実習室</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301 教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 a 歯の硬組織疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 *①歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明できる。</p>	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齶藤 美雪 木場 秀夫 田中 秀邦 ルニイ マリア 山本 浩嗣 齶藤 隆明 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 歩 小坂 康一 坂田 美子 紫垣 華里 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 阿部 洋太郎 神向寺 登美夫 永井 隆雄
2016/04/20 (水) 2時限 10:40～12:10	歯髓の病変	<p>【授業の一般目標】 主として齶蝕に続発する歯髓疾患について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 歯髓の退行性病変について解説できる。 2. 歯髓の進行性病変について説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 ・退行性病変, 進行性病変, 循環障害及び炎症について説明できる。</p> <p>【学修場所・媒体等】 301 講堂, マルチメディアの併用, 第2実習室</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301 教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 a 歯の硬組織疾患</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 イ 歯の硬組織・歯髓・根尖歯周組織・辺縁歯周組織の疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 *③歯髓・根尖歯周組織疾患の病因と病態を説明できる。</p>	木場 秀夫 田中 秀邦
2016/04/20 (水) 3時限 13:00～14:30	歯髓の病変	<p>【授業の一般目標】 歯髓への傷害の結果として起こる病的反応について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 歯髓の循環障害について述べることができる。 2. 歯髓炎の分類と病理学的特徴について解説できる。</p> <p>【準備学修項目】 ・退行性病変, 進行性病変, 循環障害及び炎症について説明できる。</p> <p>【学修場所・媒体等】 301 講堂, マルチメディアの併用, 第2実習室</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p>	木場 秀夫 田中 秀邦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/04/20 (水) 3時限 13:00~14:30	歯髄の病変	<p>【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 a 歯の硬組織疾患</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 イ 歯の硬組織・歯髄・根尖歯周組織・辺縁歯周組織の疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 *③歯髄・根尖歯周組織疾患の病因と病態を説明できる。</p>	木場 秀夫 田中 秀邦
2016/04/20 (水) 4時限 14:40~16:10	歯髄の病変（実習）	<p>【授業の一般目標】 種々の歯髄疾患について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 歯髄の退行性病変について解説できる。 2. 歯髄の進行性病変について説明できる。 3. 歯髄の循環障害について述べるができる。 4. 歯髄炎の分類と病理学的特徴について解説できる。</p> <p>【準備学修項目】 ・退行性病変，進行性病変，循環障害及び炎症について説明できる。</p> <p>【学修場所・媒体等】 301 講堂，マルチメディアの併用，第2実習室</p> <p>【学修方略（LS）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 a 歯の硬組織疾患</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 イ 歯の硬組織・歯髄・根尖歯周組織・辺縁歯周組織の疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 *③歯髄・根尖歯周組織疾患の病因と病態を説明できる。</p>	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 木場 秀夫 田中 秀邦 ルコイ マリア 山本 浩嗣 齋藤 隆明 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 坂田 一美 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 阿部 洋太郎 神向寺 登美夫 永井 隆雄
2016/04/27 (水) 2時限 10:40~12:10	根尖部歯周組織の病変	<p>【授業の一般目標】 根尖病変について説明することができる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 根尖病変の病因について説明できる。 2. 根尖性歯周炎の分類について解説できる。 3. 急性根尖性歯周炎の病理学的特徴について述べるができる。 4. 慢性根尖性歯周炎の病理学的特徴について説明できる。 5. 根尖病変の合併症について解説できる。 6. 歯性病巣感染について述べるができる。</p> <p>【準備学修項目】 ・炎症の病因や分類について解説できる。</p> <p>【学修場所・媒体等】 301 講堂，マルチメディアの併用，第2実習室</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 a 歯の硬組織疾患</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 イ 歯の硬組織・歯髄・根尖歯周組織・辺縁歯周組織の疾患</p>	木場 秀夫 田中 秀邦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/04/27 (水) 2時限 10:40~12:10	根尖部歯周組織の病変	<p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 *③歯髄・根尖歯周組織疾患の病因と病態を説明できる。</p>	木場 秀夫 田中 秀邦
2016/04/27 (水) 3時限 13:00~14:30	辺縁部歯周組織の病変	<p>【授業の一般目標】 歯周病について説明することができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 歯周病の病因について述べることができる。 2. 歯周病の病態について説明できる。 3. 歯周病の分類について解説できる。 4. 歯周病と全身疾患との関連について説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 ・歯周組織の正常組織構造について説明できる。 ・炎症の病因と分類について解説できる。</p> <p>【学修場所・媒体等】 301 講堂, マルチメディアの併用, 第2実習室</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301 教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 a 歯の硬組織疾患</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 イ 歯の硬組織・歯髄・根尖歯周組織・辺縁歯周組織の疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 *④歯周疾患の病因と病態を説明できる。</p>	木場 秀夫 田中 秀邦
2016/04/27 (水) 4時限 14:40~16:10	根尖部歯周組織及び辺縁部歯周組織の病変(実習)	<p>【授業の一般目標】 根尖及び辺縁歯周組織の病変について説明することができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 急性根尖性歯周炎の病理学的特徴について述べるができる。 2. 慢性根尖性歯周炎の病理学的特徴について説明できる。 3. 歯周病の病理学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 ・炎症の病因や分類について解説できる。</p> <p>【学修場所・媒体等】 301 講堂, マルチメディアの併用, 第2実習室</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301 教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 c 根尖性歯周組織疾患</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 d 歯周病 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 イ 歯の硬組織・歯髄・根尖歯周組織・辺縁歯周組織の疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 *③歯髄・根尖歯周組織疾患の病因と病態を説明できる。 *④歯周疾患の病因と病態を説明できる。</p>	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 木場 秀夫 田中 秀邦 丸ノエ マリア 山本 浩嗣 齋藤 隆明 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 坂田 一美 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 彰 鈴木 慶洋 鈴木 強 田中 吉夫 玉城 啓介 中澤 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 阿部 洋太郎 神向寺 登美夫 永井 隆雄
2016/05/11 (水) 2時限 10:40~12:10	口腔粘膜の感染性疾患	<p>【授業の一般目標】 口腔粘膜感染症について十分に理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 口腔粘膜感染症を分類できる。 2. 口腔粘膜感染症の病理学的特徴について説明できる。</p>	久山 佳代

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/05/11 (水) 2時限 10:40～12:10	口腔粘膜の感染性疾患	<p>【準備学修項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔粘膜の正常組織構造について解説できる。</li> </ul> <p>【学修場所・媒体等】</p> <p>301 講堂, マルチメディアの併用, 第2実習室</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>301 教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>14 主要な疾患と障害の病因・病態</p> <p>イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念</p> <p>n 口腔粘膜疾患</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>歯科医学総論</p> <p>総論VI 病因、病態</p> <p>11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態</p> <p>ウ 口腔粘膜の疾患</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学教育</p> <p>E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患</p> <p>E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患</p> <p>E-2-4) - (3) 炎症とアレルギー</p> <p>*④口唇・口腔・顎顔面領域の特異性炎の種類と特徴を説明できる。</p> <p>E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患</p> <p>*①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。</p> <p>*②水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする主な粘膜疾患を概説できる。</p>	久山 佳代
2016/05/11 (水) 3時限 13:00～14:30	口腔粘膜の感染性疾患	<p>【授業の一般目標】</p> <p>口腔粘膜感染症について十分に理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 口腔粘膜感染症を分類できる。</li> <li>2. 口腔粘膜感染症の病理学的特徴について説明できる。</li> </ol> <p>【準備学修項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔粘膜の正常組織構造について解説できる。</li> </ul> <p>【学修場所・媒体等】</p> <p>301 講堂, マルチメディアの併用, 第2実習室</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>301 教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>14 主要な疾患と障害の病因・病態</p> <p>イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念</p> <p>n 口腔粘膜疾患</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>歯科医学総論</p> <p>総論VI 病因、病態</p> <p>11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態</p> <p>ウ 口腔粘膜の疾患</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学教育</p> <p>E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患</p> <p>E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患</p> <p>E-2-4) - (3) 炎症とアレルギー</p> <p>*④口唇・口腔・顎顔面領域の特異性炎の種類と特徴を説明できる。</p> <p>E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患</p> <p>*①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。</p> <p>*②水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする主な粘膜疾患を概説できる。</p>	久山 佳代
2016/05/11 (水) 4時限 14:40～16:10	口腔粘膜の感染性疾患 (実習)	<p>【授業の一般目標】</p> <p>口腔粘膜感染症について十分に理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 口腔粘膜感染症を分類できる。</li> <li>2. 口腔粘膜感染症の病理学的特徴について説明できる。</li> </ol> <p>【準備学修項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔粘膜の正常組織構造について解説できる。</li> </ul> <p>【学修場所・媒体等】</p> <p>301 講堂, マルチメディアの併用, 第2実習室</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>301 教室、第2実習室</p>	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 木場 秀夫 田中 秀邦 丸ノエ マリア 山本 浩嗣 齋藤 隆明 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 坂田 一美 紫垣 華子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/05/11 (水) 4時限 14:40～16:10	口腔粘膜の感染性疾患(実習)	<p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 1 4 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 n 口腔粘膜疾患</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 1 1 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 ウ 口腔粘膜の疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (3) 炎症とアレルギー *④口唇・口腔・顎顔面領域の特異性炎の種類と特徴を説明できる。</p>	茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 阿部 洋太郎 神向寺 登美夫 永井 隆雄
2016/05/18 (水) 2時限 10:40～12:10	腫瘍総論	<p>【授業の一般目標】 腫瘍について十分に理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 腫瘍の発生原因と組織発生(多段階説)を説明できる。 2. 腫瘍の分類について説明できる。 3. 良・悪性腫瘍の肉眼的及び病理組織学的鑑別点について解説できる。 4. 非歯原性腫瘍を列挙できる。</p> <p>【準備学修項目】 ・上皮性組織と非上皮性組織について説明できる。 ・腫瘍の定義を述べることができる。 ・細胞分裂周期と形態学的特徴について解説できる。</p> <p>【学修場所・媒体等】 301 講堂, マルチメディアの併用, 第2実習室</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 301 教室, 第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 1 4 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 1 1 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 ウ 口腔粘膜の疾患 7 腫瘍 ア 腫瘍の概念</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-5) 腫瘍 *①腫瘍の定義を説明できる。 *②腫瘍の病因を説明できる。 *③異形成を説明できる。 *④腫瘍の異型性と組織学的分化度を説明できる。 *⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 *⑥局所における腫瘍の増殖、浸潤および転移を説明できる。</p>	メルニエ マリア
2016/05/18 (水) 3時限 13:00～14:30	口腔の加齢変化と加齢に伴う口腔病変	<p>【授業の一般目標】 口腔に見られる加齢変化と加齢に伴う口腔病変について十分に理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 口腔軟組織の加齢変化について説明できる。 2. 歯・歯髄・歯周組織・顎骨の加齢変化について解説できる。 3. 唾液腺の加齢変化について説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 ・退行性病変について説明できる。</p> <p>【学修場所・媒体等】 301 講堂, マルチメディアの併用, 第2実習室</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 301 教室, 第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 7 人体の発生・成長・発達・加齢 ウ 加齢による歯・口腔・顎・顔面の変化 a 歯の変化</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項</p>	久山 佳代 木場 秀夫



日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/05/18 (水) 3時限 13:00~14:30	口腔の加齢変化と加齢に伴う口腔病変	7 人体の発生・成長・発達・加齢 ウ 加齢による歯・口腔・顎・顔面の変化 b 歯周組織の変化 c 顎骨・顎堤の変化 d 顔面の変化 e 歯列・咬合の変化 f 顎関節の変化 g 筋の変化 h 神経系の変化 i 口腔粘膜の変化 j 唾液腺の変化 歯科医学総論 総論V 発生、成長、発達、加齢 6 加齢・老化による歯・口腔・顎・顔面の変化 ア 形態的变化  【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-4) 人体諸器官の成長、発育と加齢変化 *①人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。	久山 佳代 木場 秀夫
2016/05/18 (水) 4時限 14:40~16:10	病理組織診断の整理と鑑別診断(実習)	【授業の一般目標】 ・口腔顎顔面領域の疾患に関する病理組織診断および鑑別診断を実施することができる。  【行動目標 (SBOs)】 1. 口腔顎顔面領域の疾患に関する病理組織診断および鑑別診断を実施することができる。  【準備学修項目】 これまでに学習した病変・疾患に関する病理組織診断および鑑別診断について復習・習熟する。  【学修場所・媒体等】 301 講堂, マルチメディアの併用, 第2実習室  【学修方略 (LS)】 実習  【場所 (教室/実習室)】 301 教室, 第2実習室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 a 健康・疾病の概念  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 *①歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明できる。	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 木場 秀夫 田中 秀邦 ルコイ マリア 山本 浩嗣 齋藤 隆明 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 坂田 一美 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 阿部 洋太郎 神向寺 登美夫 永井 隆雄
2016/05/25 (水) 2時限 10:40~12:10	口腔の非歯原性腫瘍及び腫瘍様病変	【授業の一般目標】 口腔領域に発生する非歯原性腫瘍及び腫瘍様病変について理解する。  【行動目標 (SBOs)】 1. 口腔粘膜の上皮性腫瘍の病因・病態について説明できる。 2. 口腔軟組織及び顎骨に発生する非上皮性腫瘍の病因・病態について解説できる。 3. 顎骨の転移性腫瘍の病理学的特徴について述べるができる。 4. 口腔粘膜の前癌病変と前癌状態について説明できる。 5. エプーリスの病理学的特徴について解説できる。  【準備学修項目】 ・口腔粘膜の正常組織構築について解説できる。 ・腫瘍の定義を述べるができる。 ・良性腫瘍と悪性腫瘍の鑑別点について説明できる。 ・腫瘍発生の諸段階について解説できる。 ・悪性腫瘍の転移様式について説明できる。  【学修場所・媒体等】 301 講堂, マルチメディアの併用, 第2実習室  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 301 教室, 第2実習室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 1 腫瘍、腫瘍類似疾患  【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 j 炎症性疾患 歯科医学総論	久山 佳代

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/05/25 (水) 2時限 10:40～12:10	口腔の非歯原性腫瘍及び腫瘍様病変	<p>総論Ⅵ 病因、病態 1 1 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 キ 腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞、腫瘍および類似疾患 *⑥非歯原性良性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。 *⑦口唇・口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の一般的な症状、診断法(組織診、画像診断)および治療法を説明できる。 *⑩前癌病変(白板症、紅板症)の特徴、症状および治療法を説明できる。 *⑪前癌状態の種類と特徴を列挙できる。 *⑫口腔癌の特徴、予防、症状および治療法を説明できる。 *⑧腫瘍類似疾患の種類と特徴を列挙できる。 *⑨エプーリスの特徴、症状および治療法を説明できる。 *⑬口唇・口腔領域の悪性腫瘍の種類、症状および治療法を説明できる。</p>	久山 佳代
2016/05/25 (水) 3時限 13:00～14:30	口腔の非歯原性腫瘍及び腫瘍様病変	<p>【授業の一般目標】 口腔領域に発生する非歯原性腫瘍及び腫瘍様病変について理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 口腔粘膜の上皮性腫瘍の病因・病態について説明できる。 2. 口腔軟組織及び顎骨に発生する非上皮性腫瘍の病因・病態について解説できる。 3. 顎骨の転移性腫瘍の病理学的特徴について述べるができる。 4. 口腔粘膜の前癌病変と前癌状態について説明できる。 5. エプーリスの病理学的特徴について解説できる。</p> <p>【準備学修項目】 ・口腔粘膜の正常組織構築について解説できる。 ・腫瘍の定義を述べることができる。 ・良性腫瘍と悪性腫瘍の鑑別点について説明できる。 ・腫瘍発生の諸段階について解説できる。 ・悪性腫瘍の転移様式について説明できる。</p> <p>【学修場所・媒体等】 301 講堂, マルチメディアの併用, 第2実習室</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 301教室, 第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 1 4 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 1 4 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 1 腫瘍、腫瘍類似疾患 歯科医学総論 総論Ⅵ 病因、病態 7 腫瘍 キ 良性腫瘍、悪性腫瘍 ク 前癌状態、前癌病変 1 1 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 キ 腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞、腫瘍および類似疾患 *⑥非歯原性良性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。 *⑦口唇・口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の一般的な症状、診断法(組織診、画像診断)および治療法を説明できる。 *⑩前癌病変(白板症、紅板症)の特徴、症状および治療法を説明できる。 *⑪前癌状態の種類と特徴を列挙できる。 *⑫口腔癌の特徴、予防、症状および治療法を説明できる。 *⑧腫瘍類似疾患の種類と特徴を列挙できる。 *⑨エプーリスの特徴、症状および治療法を説明できる。 *⑬口唇・口腔領域の悪性腫瘍の種類、症状および治療法を説明できる。</p>	久山 佳代
2016/05/25 (水) 4時限 14:40～16:10	口腔の非歯原性腫瘍及び腫瘍様病変(実習)	<p>【授業の一般目標】 口腔領域に発生する非歯原性腫瘍及び腫瘍様病変について理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 口腔発生する上皮性及び非上皮性腫瘍の病理学的特徴について解説できる。</p> <p>【準備学修項目】 ・口腔粘膜の正常組織構築について解説できる。 ・腫瘍の定義を述べることができる。 ・良性腫瘍と悪性腫瘍の鑑別点について説明できる。 ・腫瘍発生の諸段階について解説できる。 ・悪性腫瘍の転移様式について説明できる。</p> <p>【学修方略(LS)】 実習</p>	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 木場 秀夫 田中 秀邦 ルニイ マリア 山本 浩嗣 齋藤 隆明 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/05/25 (水) 4時限 14:40～16:10	口腔の非歯原性腫瘍及び腫瘍様病変(実習)	<p>【場所(教室/実習室)】 301教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 j 炎症性疾患 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 7 腫瘍 ク 前癌状態、前癌病変 ケ 腫瘍と宿主の関係 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 キ 腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞、腫瘍および類似疾患 *⑥非歯原性良性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。 *⑦口唇・口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の一般的な症状、診断法(組織診、画像診断)および治療法を説明できる。 *⑩前癌病変(白板症、紅板症)の特徴、症状および治療法を説明できる。 *⑪前癌状態の種類と特徴を列挙できる。 *⑫口腔癌の特徴、予防、症状および治療法を説明できる。 *⑧腫瘍類似疾患の種類と特徴を列挙できる。 *⑨エプーリスの特徴、症状および治療法を説明できる。 *⑬口唇・口腔領域の悪性腫瘍の種類、症状および治療法を説明できる。</p>	坂田 一美 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 彰二 鈴木 誠 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 阿部 洋太郎 神向寺 登美夫 永井 隆雄
2016/06/01 (水) 2時限 10:40～12:10	平常試験1(一般問題形式)	<p>【授業の一般目標】 ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し、理論的に説明できる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し、理論的に説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し、理論的に説明できる。</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 301教室、第2実習室</p>	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪
2016/06/01 (水) 3時限 13:00～14:30	平常試験1(顕微鏡や視覚素材を用いた問題形式)	<p>【授業の一般目標】 ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し、理論的に説明できる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し、理論的に説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し、理論的に説明できる。</p> <p>【学修方略(LS)】 実習</p> <p>【場所(教室/実習室)】 301教室、第2実習室</p>	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪
2016/06/01 (水) 4時限 14:40～16:10	解説講義	<p>【授業の一般目標】 ・口腔顎顔面領域の代表的疾患について診断し、病理学的に説明できる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 平常試験1の範囲の病変を分類できる。 2. 平常試験1の範囲の病変を理解し、説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 ・口腔顎顔面領域の代表的疾患について診断し、病理学的に説明できる。</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 301教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 b 先天異常、発育異常</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 c 損傷 d 炎症</p>	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/06/01 (水) 4時限 14:40～16:10	解説講義	f 嚢胞 e 感染症  【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-4) 炎症 *①炎症の定義を説明できる。【発症機序を含む。】 C-4-1) 細胞傷害、組織傷害および萎縮 *①細胞傷害と組織傷害について説明できる。【変性を含む。】	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪
2016/06/08 (水) 2時限 10:40～12:10	顎及び顎関節の非腫瘍性病変と腫瘍様病変	【授業の一般目標】 顎及び顎関節の非腫瘍性病変と腫瘍様病変について理解できる。  【行動目標 (SBOs)】 1. 顎骨骨髓炎の病理学的特徴について説明できる。 2. 顎・顎関節外傷の病理学的特徴について解説できる。 3. 顎関節炎の病理学的特徴について述べることができる。 4. 顎骨の遺伝性及び原因不明の疾患について説明できる。 5. 線維骨性病変を列挙できる。 6. 線維骨性病変の病理組織学的特徴について解説できる。  【準備学修項目】 ・顎骨の正常組織構造について解説できる。  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 301教室、第2実習室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 m 顎関節疾患  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (3) 炎症とアレルギー *⑦主な炎症 (舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨髓炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎、歯性上顎洞炎等) を概説できる。 E-2-4) - (6) 顎関節疾患 *①顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。 *②顎関節疾患 (外傷、脱臼、炎症、顎関節症、顎関節強直症) の症状、診断法および治療法を概説できる。	宇都宮 忠彦
2016/06/08 (水) 3時限 13:00～14:30	顎及び顎関節の非腫瘍性病変及び腫瘍様病変	【授業の一般目標】 顎及び顎関節の非腫瘍性病変及び腫瘍様病変について理解できる。  【行動目標 (SBOs)】 1. 顎骨骨髓炎の病理学的特徴について説明できる。 2. 顎・顎関節外傷の病理学的特徴について解説できる。 3. 顎関節炎の病理学的特徴について述べることができる。 4. 顎骨の遺伝性及び原因不明の疾患について説明できる。 5. 線維骨性病変を列挙できる。  【準備学修項目】 ・顎骨の正常組織構造について解説できる。  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 301教室、第2実習室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 m 顎関節疾患  【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 オ 顎・顎関節の疾患  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (3) 炎症とアレルギー *⑦主な炎症 (舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨髓炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎、歯性上顎洞炎等) を概説できる。 E-2-4) - (6) 顎関節疾患 *①顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。	宇都宮 忠彦
2016/06/08 (水) 4時限 14:40～16:10	顎及び顎関節の非腫瘍性病変及び腫瘍様病変 (実習)	【授業の一般目標】 顎及び顎関節の非腫瘍性病変及び腫瘍様病変について理解する。  【行動目標 (SBOs)】 1. 顎及び顎関節の非腫瘍性病変及び腫瘍様病変の病理学的特徴について説明で	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 木場 秀夫 田中 秀邦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/06/08 (水) 4時限 14:40～16:10	顎及び顎関節の非腫瘍性病変及び腫瘍様病変(実習)	<p>きる。</p> <p>【準備学修項目】 ・顎骨の正常組織構造について解説できる。</p> <p>【学修方略 (L S)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 m 顎関節疾患</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 k 嚢胞</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (3) 炎症とアレルギー *⑦主な炎症(舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨膜炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎、歯性上顎洞炎等)を概説できる。 E-2-4) - (6) 顎関節疾患 *①顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。</p>	丸ニイ マリア 山本 浩嗣 齋藤 隆明 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 坂田 一美 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 阿部 洋太郎 神向寺 登美夫 永井 隆雄
2016/06/15 (水) 2時限 10:40～12:10	唾液腺の非腫瘍性病変	<p>【授業の一般目標】 唾液腺に発生する非腫瘍性病変について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 唾石症について説明できる。 2. シェーグレン症候群について説明できる。 3. 種々の唾液腺の炎症性病変について説明できる。 4. 唾液腺に関連する嚢胞性病変について説明できる。 5. 唾液腺の発育異常について述べることができる。 6. 唾液腺の退行性病変について説明できる。 7. 唾液腺の化生性変化について説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 唾液腺の基本構造、解剖学的事項、唾液の成分や働きについて理解しておく。 先天異常、退行性病変、進行性病変及び炎症について解説できる。</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 o 唾液腺疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (7) 唾液腺疾患 *①唾石症の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。 *②唾液腺炎の種類と特徴、症状、診断法および治療法を概説できる。 *④流行性耳下腺炎の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。 *⑤Sjögren 症候群の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。</p>	久山 佳代
2016/06/15 (水) 3時限 13:00～14:30	歯科医療と病理診断	<p>【授業の一般目標】 種々の病理検査について理解できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 組織診について説明できる。 2. 細胞診について説明できる。 3. 術中迅速診断について説明できる。 4. 各種固定方法及び固定液について理解できる。</p> <p>【準備学修項目】 病理検査とはなにか説明できる。</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 11 検査の基本 カ 病理検査 b 組織診</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p>	久山 佳代 木場 秀夫

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/06/15 (水) 3時限 13:00~14:30	歯科医療と病理診断	<p>必修の基本的事項 1 1 検査の基本 カ 病理検査 a 細胞診</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 *①診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。</p>	久山 佳代 木場 秀夫
2016/06/15 (水) 4時限 14:40~16:10	病理組織診断の整理と鑑別診断(実習)	<p>【授業の一般目標】 ・口腔顎顔面領域の疾患に関する病理組織診断および鑑別診断を実施することができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 口腔顎顔面領域の疾患に関する病理組織診断および鑑別診断を実施することができる。</p> <p>【準備学修項目】 ・口腔顎顔面領域の疾患に関する病理組織診断および鑑別診断を実施することができる。</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 1 検査の基本 ア 意義、目標 a 診断</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 *①診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。</p>	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 木場 秀夫 田中 秀邦 ルニエ マリア 山本 浩嗣 齋藤 隆明 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 坂田 一美 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 阿部 洋太郎 神向寺 登美夫 永井 隆雄
2016/06/22 (水) 2時限 10:40~12:10	口腔の粘膜・皮膚疾患	<p>【授業の一般目標】 口腔の粘膜皮膚疾患について解説できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 口腔粘膜の自己免疫疾患について説明できる。 2. 口腔粘膜の退行性病変について説明できる。 3. 全身性病変の一部分症状としての口腔粘膜病変を説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 口腔粘膜の正常組織構造について解説できる。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 4 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 n 口腔粘膜疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 *①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 *②水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする主な粘膜疾患を概説できる。</p>	久山 佳代
2016/06/22 (水) 3時限 13:00~14:30	全身性疾患と口腔病変	<p>【授業の一般目標】 全身性疾患と口腔病変について説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 口腔領域に徴候をみる症候群を列挙できる。 2. Down症候群について解説できる。 3. 基底細胞母斑症候群について解説できる。 4. 神経線維腫症について解説できる。 5. 免疫応答に関連した口腔病変を説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 口腔が関係する全身性疾患について列挙できる。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p>	久山 佳代

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/06/22 (水) 3時限 13:00～14:30	全身性疾患と口腔病変	301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 1 1 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 ケ 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全身疾患  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (9) 口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患 *②口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す感染症の種類とその症状を列挙できる。 *④口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す全身的な腫瘍と腫瘍類似疾患およびその症状を列挙できる。 *⑤口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群の種類と症状を列挙できる。	久山 佳代
2016/06/22 (水) 4時限 14:40～16:10	口腔の粘膜皮膚疾患（実習）	【授業の一般目標】 口腔の粘膜皮膚疾患について解説できる。  【行動目標（SBOs）】 1. 口腔粘膜の自己免疫疾患について解説できる。 2. 口腔粘膜の退行性病変について説明できる。 3. 全身性病変の一部分症状としての口腔粘膜病変を説明できる。  【準備学修項目】 口腔粘膜の正常組織構造について解説できる。  【学修方略（LS）】 実習  【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室  【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 4 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 n 口腔粘膜疾患  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 *①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 *②水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする主な粘膜疾患を概説できる。	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 木場 秀夫 田中 秀邦 ルニイ マリア 山本 浩嗣 齋藤 隆明 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善人 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 康一 小泉 美子 坂田 華子 紫垣 里恵 茂田 誠二 白川 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 阿部 洋太郎 神向寺 登美夫 永井 隆雄
2016/06/29 (水) 2時限 10:40～12:10	唾液腺腫瘍	【授業の一般目標】 ・ 良性唾液腺腫瘍の組織発生、種類及び病態を説明できる。 ・ 悪性唾液腺腫瘍の組織発生、種類及び病態を解説できる。  【行動目標（SBOs）】 1. 良性唾液腺腫瘍の組織発生、種類及び病態を説明できる。 2. 悪性唾液腺腫瘍の組織発生、種類及び病態を解説できる。  【準備学修項目】 ・ 唾液腺の正常構造と機能について解説できる。 ・ 唾液腺腫瘍を列挙できる。  【学修方略（LS）】 講義  【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室  【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 4 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍  【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 1 4 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 o 唾液腺疾患  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (7) 唾液腺疾患 *③唾液腺腫瘍の種類と特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。	高田 隆 久山 佳代
2016/06/29 (水) 3時限 13:00～14:30	唾液腺腫瘍	【授業の一般目標】 ・ 良性唾液腺腫瘍の組織発生、種類及び病態を説明できる。 ・ 悪性唾液腺腫瘍の組織発生、種類及び病態を解説できる。	宇都宮 忠彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/06/29 (水) 3時限 13:00～14:30	唾液腺腫瘍	<p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. 良性唾液腺腫瘍の組織発生, 種類及び病態を説明できる。 2. 悪性唾液腺腫瘍の組織発生, 種類及び病態を解説できる。</p> <p>【準備学修項目】</p> <p>・唾液腺の正常構造と機能について解説できる。 ・唾液腺腫瘍を列挙できる。</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>301教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 o 唾液腺疾患 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 エ 唾液腺の疾患</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (7) 唾液腺疾患 *①唾石症の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。 *②唾液腺炎の種類と特徴、症状、診断法および治療法を概説できる。 *④流行性耳下腺炎の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。 *⑤Sjögren 症候群の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。</p>	宇都宮 忠彦
2016/06/29 (水) 4時限 14:40～16:10	唾液腺腫瘍(実習)	<p>【授業の一般目標】</p> <p>・良性唾液腺腫瘍の病理組織学的特徴を説明できる。 ・悪性唾液腺腫瘍の病理組織学的特徴を解説できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. 良性唾液腺腫瘍の病理組織学的特徴を説明できる。 2. 悪性唾液腺腫瘍の病理組織学的特徴を解説できる。</p> <p>【準備学修項目】</p> <p>・唾液腺の正常構造と機能について解説できる。 ・唾液腺腫瘍を列挙できる。</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>301教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 o 唾液腺疾患 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 エ 唾液腺の疾患 キ 腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (7) 唾液腺疾患 *③唾液腺腫瘍の種類と特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。</p>	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 木場 秀夫 田中 秀邦 ルニイ マリア 山本 浩嗣 齋藤 隆明 新崎 博文 猪又 俊也 大石 善之 太田 泰人 大村 光浩 大村 光雄 小泉 歩 小泉 康之 坂田 一美 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 阿部 洋太郎 神向寺 登美夫 永井 隆雄
2016/07/06 (水) 2時限 10:40～12:10	歯原性腫瘍	<p>【授業の一般目標】</p> <p>・各種歯原性腫瘍の好発部位・年齢・性別・発生及び病理組織学的特徴について述べる事ができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. 各種歯原性腫瘍の好発部位・年齢・性別・発生について述べる事ができる。 2. 各種歯原性腫瘍の病理組織学的特徴について述べる事ができる。</p> <p>【準備学修項目】</p> <p>・歯の発生と組織学的特徴について解説できる。 ・歯原性腫瘍を列挙できる。</p> <p>【学修方略 (LS)】</p>	宇都宮 忠彦



日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/07/06 (水) 2時限 10:40～12:10	歯原性腫瘍	<p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 1 腫瘍、腫瘍類似疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(5) 嚢胞、腫瘍および類似疾患 *①顎骨に発生する歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 *⑤歯原性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。</p>	宇都宮 忠彦
2016/07/06 (水) 3時限 13:00～14:30	歯原性腫瘍	<p>【授業の一般目標】 ・各種歯原性腫瘍の好発部位・年齢、性別発生及び病理組織学的特徴について述べるができる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 各種歯原性腫瘍の好発部位・年齢・性別・発生について述べるができる。 2. 各種歯原性腫瘍の病理組織学的特徴について述べるができる。</p> <p>【準備学修項目】 ・歯の発生と組織学的特徴について解説できる。 ・歯原性腫瘍を列挙できる。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 1 腫瘍、腫瘍類似疾患 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 キ 腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(5) 嚢胞、腫瘍および類似疾患 *①顎骨に発生する歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 *⑤歯原性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。</p>	宇都宮 忠彦
2016/07/06 (水) 4時限 14:40～16:10	歯原性腫瘍(実習)	<p>【授業の一般目標】 ・各種歯原性腫瘍の好発部位・年齢・性別・発生及び病理組織学的特徴について述べるができる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 各種歯原性腫瘍の好発部位・年齢・性別・発生について述べるができる。 2. 各種歯原性腫瘍の病理組織学的特徴について述べるができる。</p> <p>【準備学修項目】 ・歯の発生と組織学的特徴について解説できる。 ・歯原性腫瘍を列挙できる。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態</p>	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 木場 秀夫 田中 秀邦 ルニイ マリア 山本 浩嗣 齋藤 隆明 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 坂田 一美 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/07/06 (水) 4時限 14:40～16:10	歯原性腫瘍(実習)	イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 1 腫瘍、腫瘍類似疾患 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 1 1 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 キ 腫瘍  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞、腫瘍および類似疾患 *①顎骨に発生する歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 *⑤歯原性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。	林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 阿部 洋太郎 神向寺 登美夫 永井 隆雄
2016/07/13 (水) 2時限 10:40～12:10	口腔疾患の治療に伴う病理学的変化	【授業の一般目標】 口腔疾患の治療に伴う病理学的変化について説明できる。  【行動目標 (SBOs)】 1. 歯髄組織に伴う病理組織変化について説明できる。 2. 抜歯創の治療と合併症について解説できる。 3. 歯の破折の治療に関する病理学的特徴について述べるができる。 4. 顎骨骨折と骨移植後の治療に関する病理学的特徴について説明できる。 5. 歯の移植と再植の病理学的特徴について解説できる。 6. インプラントの病理学的特徴について述べることができる。 7. 矯正治療に伴う病理学的変化について説明できる。 8. 再生医療に関する基礎的な病理学的事項について解説できる。  【準備学修項目】 ・歯・歯髄・歯周組織・口腔粘膜における病変の病理学的特徴について解説できる。  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 301教室、第2実習室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 1 1 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 コ 口腔疾患の治療に伴う変化  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (2) 外傷 *①一般的な骨折の種類と特徴および治療過程を説明できる。 *⑥骨折の治療原則を説明できる。 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (2) 歯髄・根尖歯周組織疾患の診断と治療 *⑤歯髄・根尖歯周組織疾患の治療後の治療機転と予後を説明できる。 E-3-3) - (3) 歯周疾患の診断と治療 *⑤歯周治療後の組織の治療機転と予後を説明できる。	宇都宮 忠彦 木場 秀夫
2016/07/13 (水) 3時限 13:00～14:30	口腔疾患の治療に伴う病理学的変化	【授業の一般目標】 口腔疾患の治療に伴う病理学的変化について説明できる。  【行動目標 (SBOs)】 1. 歯髄組織に伴う病理組織変化について説明できる。 2. 抜歯創の治療と合併症について解説できる。 3. 歯の破折の治療に関する病理学的特徴について述べることができる。 4. 顎骨骨折と骨移植後の治療に関する病理学的特徴について説明できる。 5. 歯の移植と再植の病理学的特徴について解説できる。 6. インプラントの病理学的特徴について述べることができる。 7. 矯正治療に伴う病理学的変化について説明できる。 8. 再生医療に関する基礎的な病理学的事項について解説できる。  【準備学修項目】 ・歯・歯髄・歯周組織・口腔粘膜における病変の病理学的特徴について解説できる。  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 301教室、第2実習室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 1 1 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 コ 口腔疾患の治療に伴う変化  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (2) 外傷 *①一般的な骨折の種類と特徴および治療過程を説明できる。 *⑥骨折の治療原則を説明できる。 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療	宇都宮 忠彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/07/13 (水) 3時限 13:00～14:30	口腔疾患の治療に伴う病理学的変化	E-3-3) - (2) 歯髄・根尖歯周組織疾患の診断と治療 *⑤歯髄・根尖歯周組織疾患の治療後の治癒機転と予後を説明できる。 E-3-3) - (3) 歯周疾患の診断と治療 *⑤歯周治療後の組織の治癒機転と予後を説明できる。	宇都宮 忠彦
2016/07/13 (水) 4時限 14:40～16:10	病理組織診断の整理と鑑別診断(実習)	【授業の一般目標】 ・口腔顎顔面領域の疾患に関する病理組織診断および鑑別診断を実施することができる。  【行動目標 (SBOs)】 1. 歯髄組織に伴う病理組織変化について説明できる。 2. 抜歯創の治癒と合併症について解説できる。 3. 歯の破折の治癒に関する病理学的特徴について述べるができる。 4. 顎骨骨折と骨移植後の治癒に関する病理学的特徴について説明できる。 5. 歯の移植と再植の病理学的特徴について解説できる。 6. インプラントの病理学的特徴について述べることができる。 7. 矯正治療に伴う病理学的変化について説明できる。 8. 再生医療に関する基礎的な病理学的事項について解説できる。  【準備学修項目】 ・口腔顎顔面領域の疾患に関する病理組織診断および鑑別診断を実施することができる。  【学修方略 (LS)】 実習  【場所 (教室/実習室)】 301教室、第2実習室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 1 1 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 コ 口腔疾患の治療に伴う変化  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (2) 外傷 *①一般的な骨折の種類と特徴および治癒過程を説明できる。 *④歯の外傷の症状、診断法および治療法を説明できる。	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 木場 秀邦 田中 マリエ 山本 浩嗣 齋藤 隆明 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 坂田 一美 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 山林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 阿部 洋太郎 神向寺 登美夫 永井 隆雄
2016/07/20 (水) 2時限 10:40～12:10	平常試験2 (一般問題形式)	【授業の一般目標】 ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し、理論的に説明できる。  【準備学修項目】 ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し、理論的に説明できる。  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 301教室、第2実習室	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪
2016/07/20 (水) 3時限 13:00～14:30	平常試験2 (顕微鏡や視覚素材を用いた問題形式)	【授業の一般目標】 ・口腔顎顔面領域の代表的疾患について診断し、病理学的に説明できる。  【準備学修項目】 ・口腔顎顔面領域の代表的疾患について診断し、病理学的に説明できる。  【学修方略 (LS)】 実習  【場所 (教室/実習室)】 301教室、第2実習室	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪
2016/07/20 (水) 4時限 14:40～16:10	解説講義	【授業の一般目標】 ・口腔顎顔面領域の代表的疾患について診断し、病理学的に説明できる。  【行動目標 (SBOs)】 1. 平常試験2の範囲の病変を分類できる。 2. 平常試験2の範囲の病変を理解し、説明できる。  【準備学修項目】 ・口腔顎顔面領域の代表的疾患について診断し、病理学的に説明できる。  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 301教室、第2実習室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 4 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍  【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 1 4 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 c 損傷	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/07/20 (水) 4時限 14:40～16:10	解説講義	j 病的増殖 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-5) 腫瘍 *①腫瘍の定義を説明できる。 C-4-2) 修復と再生 *①修復と再生について説明できる。	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪
2016/09/07 (水) 2時限 10:40～12:10	本試験(一般問題形式)	【授業の一般目標】 ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し、理論的に説明できる。 【準備学修項目】 ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し、理論的に説明できる。 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 301教室、第2実習室	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪
2016/09/07 (水) 3時限 13:00～14:30	本試験(顕微鏡や視覚素材を用いた問題形式)	【授業の一般目標】 ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し、理論的に説明できる。 【準備学修項目】 ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し、理論的に説明できる。 【学修方略(LS)】 実習 【場所(教室/実習室)】 301教室、第2実習室	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪
2016/09/07 (水) 4時限 14:40～16:10	解説講義	【授業の一般目標】 ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し、理論的に説明できる。 【行動目標(SBOs)】 1. 口腔病変を分類できる。 2. 口腔病変を理解し、説明できる。 3. 口腔病変を正しく診断できる。 4. 病理検査方法を説明できる。 【準備学修項目】 ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し、理論的に説明できる。 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 a 健康・疾病の概念 【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 a 歯の硬組織疾患 b 歯髄疾患 c 根尖性歯周組織疾患 d 歯周病 h 先天異常、発育異常 j 炎症性疾患 k 嚢胞 l 腫瘍、腫瘍類似疾患 n 口腔粘膜疾患 o 唾液腺疾患 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-1) 細胞傷害、組織傷害および萎縮 *①細胞傷害と組織傷害について説明できる。【変性を含む。】 C-3 感染と免疫 C-3-1) 感染 *①細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫の形態学的特徴と基本的性状を説明できる。 C-4 病因と病態 C-4-5) 腫瘍 *①腫瘍の定義を説明できる。 C-4-3) 循環障害 *①虚血、充血およびうっ血の徴候、原因および転帰を説明できる。	久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪